プランに込めた基本的な考え方

「多文化共生のまち」をめざすためには、毎日の生活のなかで、国籍・民族・文化・言葉の「ちがい」などを認め合い、お互いが思いやり、支えあう心を育てていくことが、とても大切です。

こうした心を育てていくことが、こまき市民のだれもが自立し、地域社会へ参加する輪を広げ、みんなが笑顔で暮らせるまちをつくっていきます。

知っていますか？

この20年間で外国人登録者数が10倍（8,518人）に増加しました。

外国籍市民の比率は総人口の5.6%で、およそ市民の20人に1人の割合です（2010年4月1日）。

こまき市民には、日本で生まれて一度も国籍の国へ行ったことがない外国籍の方もいます。また、外国籍の方のみではなく、帰化して日本国籍を取得した方、外国で生まれた日本国籍の方、国際結婚した夫婦の子どもなど、外国籍市民と同じようなさまざまな背景を持つ方がいます。

用語の説明

用語	説明
多文化共生	国籍や民族などの異なる人々が、互いの文化的ちがいを認め合い、対等な関係を築こうとしながら、地域社会の構成員として共に生きていくことです。
こまき市民	小牧市内で暮らす人や働く人など、日常生活のなかで小牧市にかかわるすべての人とします。
外国人市民	一般的に外国籍の人を表しますが、本プランでは外国にルーツをもつ日本国籍の人も含みます。なお、外国人市民以外のこまき市民を「日本人市民」とします。
こまき調査	2010年２月～３月に、日本人市民と外国人市民を対象として行った「多文化共生アンケート調査」をいいます。

編集・発行　2011年３月

小牧市 市民産業部 生活交流課

〒485-8650　愛知県小牧市堀の内一丁目１番地

電話：0568-72-2101（代表）

小牧市多文化共生推進プラン

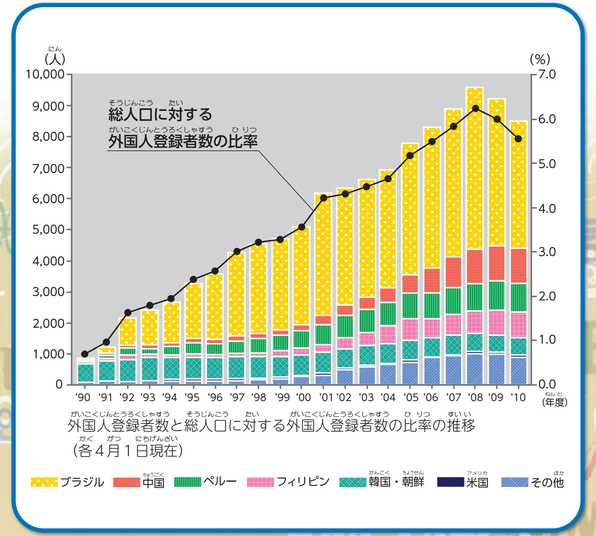
～「できることからはじめよう」編～

ダイジェスト版（日本語）

小牧市多文化共生推進プランとは？

こまき市民が多文化共生を具体的に推進していくために、基本的な考え方や行動を示したものです。ここでは、「プラン」といいます。

このプランは、①プランの具体的な内容 ②プランの推進とその体制 ③プラン策定の経緯とその組織 ④資料編で構成されています。



外国人登録者数と総人口に対する外国人登録者数の比率の推移
（各４月１日現在）

できることからはじめよう

スローガンの実現には市民一人ひとりが、お互いを支えあい協力しながら、身近にできることを一つひとつ行っていくことが大切です。課題はたくさんありますが、特にこまき市民にとって大切なことを、まずは5つ取り上げ、それらを“めざすこと”としました。

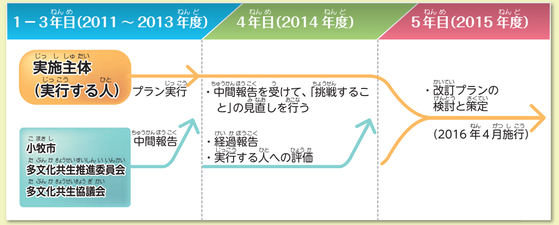
5つの“めざすこと”のなかで、こまき市民のだれもが自らできることを、市民、企業、行政それぞれの立場から考え、それらを“挑戦すること”としました。

計画の期間

2011年度から2015年度までの5年間とし、その間必要があれば「挑戦すること」の見直しを行います。

推進体制と評価体制（進み具合）

プランの策定後は、中間報告やその評価などを行いながら、進み具合を把握していきます。



プランの体系図「できることからはじめよう」編

スローガン
みんな「こまき市民」、助けあって笑顔で暮らせるまち

私たち「こまき市民」は、お互いに

- 自ら進んで地域社会へ参加します（地域社会への参加促進）
- 差別することなく人権を尊重します（個人の尊厳と基本的人権の尊重）

めざすこと（基本目標）

めざすこと①	めざすこと②	めざすこと③	めざすこと④	めざすこと⑤
一人ひとりの防災対策が100点のまちにします	自治会の活動への参加を増やします	正しいごみの出し方を知り、ごみの減量をめざします	子どもたちの「多文化共生」を応援します	国籍・民族・文化・言葉などお互いの「ちがい」を学びます
挑戦すること	挑戦すること	挑戦すること	挑戦すること	挑戦すること

市民　企業　行政

できることからはじめます

「めざすこと」とその理由

めざすこと①　一人ひとりの防災対策が100点のまちにします

その理由は?

外国人市民の中には、地震・火事・大雨などの時に「どこに連絡していいかわからない」方や、言葉がわからないために「救急車や消防車を呼べない」方がいることがわかりました。防災対策は、人の命にかかわる大切なことであり、その中でも日頃から地域の住民同士が顔見知りであることが重要だと考えました。

めざすこと②　自治会の活動への参加を増やします

その理由は?

自治会という組織がない国で育った外国人市民にとって、その役割を理解するには、時間が必要です。自治会へ参加する市民が多くなることで、誰もが助けあって笑顔で暮らせるまちになると考えました。

めざすこと③　正しいごみの出し方を知り、ごみの減量をめざします

その理由は?

市は2005年に「環境都市宣言」を行いました。ごみ減量という1つの目標を持って日本人市民と外国人市民が一緒に活動したり、正しいごみの出し方を学ぶことで、住民同士の交流が生まれるきっかけをつくることができると考えました。

めざすこと④　子どもたちの「多文化共生」を応援します

その理由は?

外国にルーツを持つ子どもが、自分のルーツに自信を持ち、堂々と自分の名前(本名)を使って、笑顔で暮らせることは、とても大切です。「多文化共生のまちづくり」を進めるなか、子どもの頃から多文化共生を学ぶことが重要であると考えました。

めざすこと⑤　国籍・民族・文化・言葉などお互いの「ちがい」を学びます

その理由は?

日本人市民も外国人市民も「交流し、仲良く暮らしたい」と同じ願いを持ち、同じ地域で暮らしていることがわかりました。こまき市民がお互いを知ることと、そのきっかけをたくさんつくることで、国籍・民族・文化・言葉の「ちがい」も知ることができると考えました。

「挑戦すること」より、例えば…

市民・企業・行政は、めざすこと①～⑤を実現するために、それぞれができることを行います。こまきが抱える課題を解決しながら、市民一人ひとりの交流の輪を広げていき、多文化共生の土台をつくっていきます。

挑戦すること

市民

・自治会は、国際交流協会(KIA)と協力し、地域の会館を会場に日本人市民と外国人市民が参加する料理教室を開催します。(めざすこと②より)

…など

企業など

・企業は、社内報に外国人社員の出身国紹介コーナーをつくるなど、社員同士の理解促進を図ります。(めざすこと⑤より)

・小牧商工会議所は、こまき産業フェスタなどでごみ箱を設置する時に、多言語でごみの分別方法を掲示します。(めざすこと③より)

…など

行政

・行政(防災課)は、地域の防災訓練で、日本人市民と外国人市民が協力して取り組めるような訓練方法をつくります。(めざすこと①)

・行政(図書館、まなび創造館)は、外国人市民の親や子どもに読み聞かせができるような絵本を収集し、母語や母文化などに子どもが親しめるようにします。(めざすこと④より)

…など

他にもたくさんのことに挑戦します。
くわしくは本編をご覧ください。